

まだファイル共有サーバーを使いますか？

**クラウドストレージで
安全・便利なファイル管理！**

INDEX

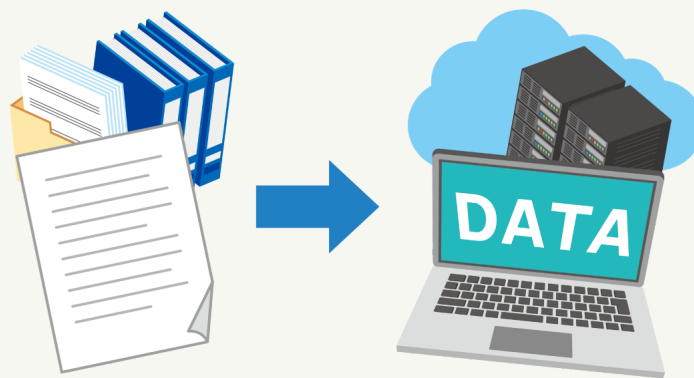
Introduction - ファイル管理の見直しが必要な理由	2p	おすすめクラウドストレージサービス「WPS Cloud Pro」	15p
従来型ファイル管理でよくある問題	3p	1. 月額300円～！優れたコストパフォーマンス	16p
1. 社外からファイルサーバーにアクセスできない	4p	2. 互換性オフィスソフトも使える	17p
2. ファイル同時アクセス不可による「順番待ち」の発生	5p	3. セキュアなファイル管理を実現する組織管理コンソール機能	18p
3. 外部とのセキュアなファイル共有（PPAP問題など）	6p	WPS Cloud Proで、ファイル管理をアップデート	19p
4. 「情報の社外持ち出し」による情報漏えいリスク	7p	お問い合わせ	20p
クラウドストレージで“まるっと”解決	8p		
クラウドストレージの課題解決ポイント	9p		
1. いつでも・どこからでもデータにアクセスできる	10p		
2. 同時アクセスが可能、共同編集でリアルタイム共有	11p		
3. アクセス制限を活用して安全なファイル共有を実現	12p		
4. データをすべてクラウド管理 情報を社外に持ち出さない	13p		
クラウドストレージで生産性と安全性を両立	14p		

introduction

ファイル管理の見直しが必要な理由

企業が活動を行うためには、適切な「ファイル管理」が欠かせません。経理業務で扱われる領収書や請求書、営業活動で必要となる見積書やプレゼン資料、企業活動の進捗を定量的に把握するグラフ・データなど、企業はさまざまなドキュメントを作成し、それらを「ファイル」として管理します。これらのファイルはいずれも企業活動に必須のものであり、作って終わりではなく、「記録」や「ノウハウ」として保管・管理する必要があります。ファイル管理とはそのための取り組みです。

企業活動に欠かせないファイル管理ですが、在宅勤務やモバイルワークといった「新しい働き方」が浸透しつつある昨今、従来のファイルサーバーを活用したやり方に課題を覚える企業が少なくないようです。本資料では、従来型ファイル管理方法のよくある課題について取り上げた後、それらの課題を解消するために役立つITソリューションとして「クラウドストレージ」をご紹介します。クラウドストレージとはどういうものか、それがなぜ課題解消に役立つのか。従来型ファイル管理の課題を切り口に、詳しく解説します。「ファイル管理の見直し」を検討されている企業様は、ぜひご参考ください。



—— こんなお悩み、ありませんか？

従来型ファイル管理でよくある問題

業務生産性面

1

社外からファイルサーバーに
アクセスできない

2

ファイル同時アクセス不可による
「順番待ち」の発生

セキュリティ面

3

外部とのセキュアなファイル共有
(例：PPAP問題)

4

「情報の社外持ち出し」による
情報漏えいリスク

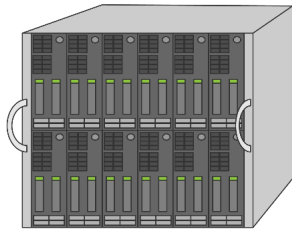
現状のファイル管理方法について、上記で挙げているような4つの問題を実感されている企業も多いのではないのでしょうか。いずれも従来型のファイル管理を敷いている場合に浮上しやすい問題であり、特に「社内ファイルサーバー」をファイル管理ツールに用いているケースで多く見られます。社内ファイルサーバーとは、いわゆる「オンプレミス型」と呼ばれるファイルサーバーの一種。自社専用のコンピューターサーバーを設置し、そこでファイル管理を行います。社内のファイル管理やファイル共有

に役立つ一方で、アクセス制限による業務生産性の低下や、PCローカルに保存された情報資産を管理者が統制ができないことによるセキュリティリスクの発生といったデメリットがあります。

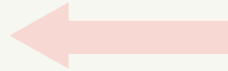
また、近年では外部とのセキュアなファイル共有が困難であることも課題として挙げられており、その代表例がPPAP問題です。従来型のファイル管理方法では対応が追いつかず、ファイル管理の見直しを迫られている企業も少なくありません。

1 社外からファイルサーバーにアクセスできない

会社のファイルサーバー



社外環境から
アクセス不可



外出先



ファイルサーバーに
用事があるたびに
会社に戻らないといけない

ファイル管理における問題の中でも、よく耳にするのが「会社の中でしかデータにアクセスできない」というもの。外出先や自宅など、社外の環境からファイルサーバーにアクセスすることができず、**必要なときには、わざわざファイルサーバーがある会社や事業所まで出向かなくては行けない**、という問題です。この問題は、ファイル管理をオンプレミス型の社内ファイルサーバーで行っているケースに多く、ファイルの取り扱いに関し

して「場所の制限」を強く受けることから、業務生産性の維持・向上においてひとつの障壁となっています。

特に営業や現場監督など外出の多い職種において問題となりやすく、「書類を持ち出すたびに会社に戻らなくてはならず、移動時間が嵩んで作業が進まない」といったように、長時間労働の原因となっているケースも少なくありません。

2 ファイル同時アクセス不可による「順番待ち」の発生

編集作業中・・・



ファイルへの
同時ログインが
できない



同じファイルに用事がある人

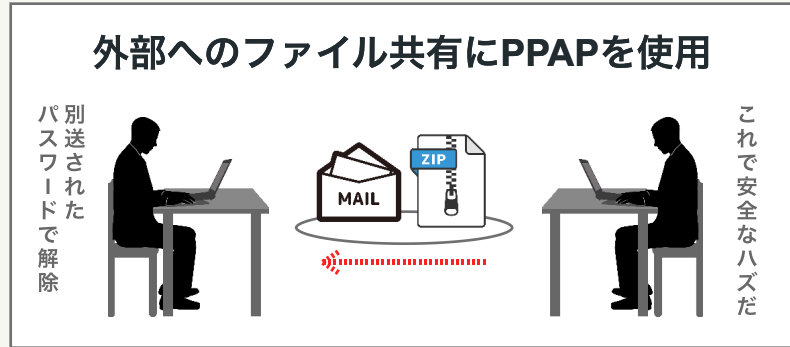


前の人がファイル編集を
終えるまで待たないといけない

社内ファイルサーバーに保管されているファイルを編集しようとしたとき、他の社員が編集をしていて作業が行えない……。このような状況に遭遇したことがある方もいるのではないのでしょうか。これはファイル管理上の課題であり、システム上、サーバー内のファイルに同時にアクセスできないことが原因です。先ほど解説した「①社外からファイルサーバーにアクセスできない」と同様に、ファイル管理に社内ファイルサーバーを用い

ているケースに多くみられます。同じファイルに用事がある人は、編集を行っている社員がファイルから退出するまで、作業を待たなくてはなりません。相手の社員がうっかりファイルにアクセスしたまま長時間離席したりすると、いつまでもファイル編集が行えないので、作業進行にあたって遅延を招く恐れがあります。

3 外部とのセキュアなファイル共有（PPAP問題など）



実はセキュリティリスクが高い！



—PPAPの主なセキュリティリスク—

- ①暗証番号付きZipファイルは**解析ツール**で解除可能
- ②Zipファイルに潜む**マルウェア**を検知できない
- ③誤送信といった**ヒューマンエラー**に弱い

外部とのセキュアなファイル共有に課題を感じている企業も多いのではないかと思います。その課題の原因の中でも代表的なのが「PPAP問題」です。PPAP問題とは、ファイル共有におけるセキュリティ対策の一種「PPAP（パスワード付きZipファイルを活用したファイル共有）」の問題点を指摘したものです。ビジネスの安全なファイル共有方法として長らく重宝されてきたPPAPですが、近年「実はむしろセキュリティリスクが高いこと」が再認識されており、**2020年11月には政府機関がPPAP廃止を宣言**。それに続いて日立製作所やNTTデータなど大手ITベンダーもPPAP廃止を

アナウンスし、PPAP問題へと発展しました。PPAPのセキュリティリスクは、大きく分けて3つ。1つは「暗証番号付きZipファイルは、解析ツールを使えば比較的簡単に解除可能なこと」。2つ目は、「Zipファイルに潜むマルウェアを検知できないこと」。最後の3つ目は、「誤送信といったヒューマンエラーに弱いこと」です。これらのセキュリティリスクの懸念から、**企業は従来のようにPPAPを使ったファイル共有について見直しを迫られており、よりセキュアなファイル共有方法の立案・策定が求められています**。

4 「情報の社外持ち出し」による情報漏えいリスク

セキュリティ面

端末のローカルストレージに
ファイルを保存



提案資料として
紙に印刷しておいた書類



社用PCから自己所有の
USBメモリに許可なくデータを移行・保存



「置き忘れ」や「しまい忘れ」で紛失

悪意ある第三者に取得され情報漏えいに繋がる恐れ

従業員が情報を不正持ち出し

機密情報が流出した場合、会社が甚大な被害を被る恐れ

「情報の社外持ち出し」による情報漏えいのリスクもファイル管理上の課題として多くの企業が問題視しています。そこには大きく分けて2つのリスクが存在し、1つは「紛失」、もう1つは「不正持ち出し」です。紛失とは、「**ファイルを保存した端末**」や「**印刷した紙の書類**」を無くしてしまうことを意味します。紛失したものが悪意ある第三者に取得された場合、重大な情報漏えいにつながる恐れがあります。

もう1つの不正持ち出しとは、**従業員が自らの意思で情報を不正に持ち出すこと**です。例えば、社用PCにダウンロードしたデータを自己所有のUSBメモリに保存し、許可なく持ち出すようなケースが挙げられます。来期の戦略方針や商品の開発データなど会社の機密情報が持ち出され、それが流出した場合、企業にとって甚大な被害を被る恐れがあります。

—— これらの悩みは全部、

クラウドストレージでまるっと解決！



クラウドストレージとは

クラウドストレージとはファイルサーバーの一種。**サービス会社が提供するファイルストレージをインターネットを介して利用するのが大きな特徴**です。月契約のサブスクリプション形式のサービスが多く、必要なものを必要な分だけ、手軽に使えるというのがクラウドストレージの大きなメリットといえます。



クラウドストレージのファイル共有

クラウドストレージでは「**ファイルの保管場所（URL）を伝える**」という方法で相手とファイルを共有します。「（メールなどで）ファイルを送る」のではなく、「保管場所を伝えて共有する」というファイル管理上の文化的な違いが、社内ファイルサーバーとクラウドストレージにおけるファイル共有の大きな違いです。

クラウドストレージの課題解決ポイント

1 社外からファイルサーバーに
アクセスできない

POINT
1 いつでも・どこからでも
データにアクセスできる

2 ファイル同時アクセス不可による
「順番待ち」の発生

POINT
2 同時アクセスが可能、
共同編集でリアルタイム共有

3 外部とのセキュアなファイル共有
(例：PPAP問題)

POINT
3 アクセス制限を活用して
安全なファイル共有を実現

4 「情報の社外持ち出し」による
情報漏えいリスク

POINT
4 データをすべてクラウド管理
情報を社外に持ち出さない

POINT1. いつでも・どこからでもデータにアクセスできる



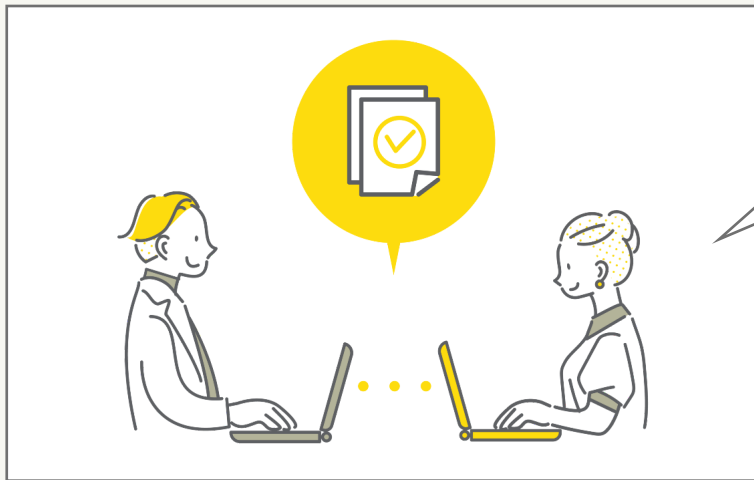
ネットと端末さえ揃えば
いつでも・どこからでもアクセス可能！

外出先のカフェや移動中の電車内からでも
ストレージにアクセスして操作が行える

クラウドストレージはインターネットを介してサービス会社が提供するファイルストレージを利用します。インターネットに接続可能な端末とネット環境さえ用意できれば、いつでも・どこからでもストレージにアクセスできるのが大きなメリットです。**勤務する場所や時間に縛られない自由な働き方を実践できます。**例えば、外出先のカフェからPCで作業をしたり、移動中の電車内からスマートフォンでファイルチェックをしたりする

ことが可能です。社内ファイルサーバーのように「社内であればデータにアクセスできない」ということはなく、ドキュメントの提出や持ち出しのために逐一会社や事業所に戻る手間が省けます。営業であれば直行直帰がやりやすくなり、現場監督であれば事業所に寄らず現場間を直接行き来できるようになるでしょう。**移動時間が減って、効率よく働けるようになります。**テレワークの環境整備にも大いに役立つはずですよ。

POINT2. 同時アクセスが可能、共同編集でリアルタイム共有



- ファイルに同時アクセス可能
- 編集操作も同時に行える

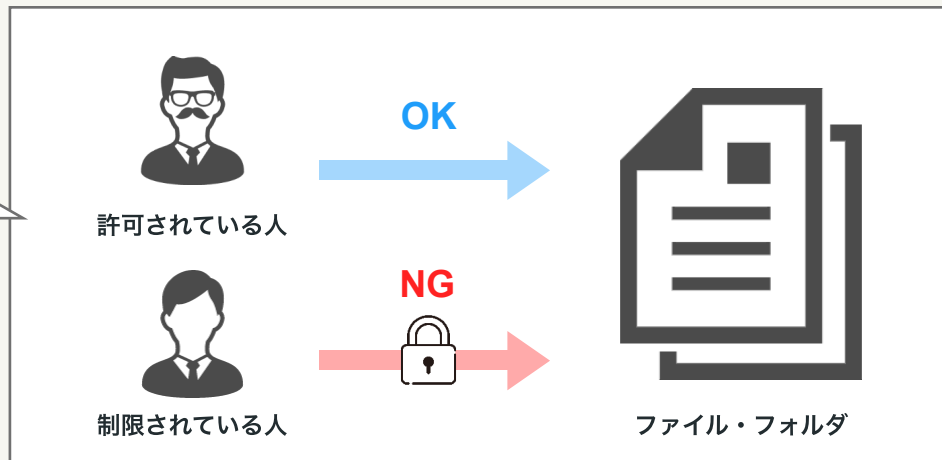
更新状況をリアルタイムに共有できる
= 共同編集

オフィスソフト機能を搭載したクラウドストレージであれば、**ひとつのドキュメントに対して複数のユーザーが同時にアクセスできます。**編集操作も同時に行うことができ、更新状況はすぐにファイルに反映されます。この「複数のユーザーがファイルに同時アクセスでき、更新状況をリアルタイムに共有しながら編集操作を行える機能」を、共同編集と呼びます。

共同編集機能はインターネットを活用するクラウドストレージならではの特徴的な機能であり、複数のユーザーが同時にファイルにアクセスし編集操作できるので、ファイル編集の順番待ちといった事態が発生しません。スピーディな情報共有や業務連携が可能になり、効率よく作業を進められるようになります。

POINT3. アクセス制限を活用して安全なファイル共有を実現

ファイルやフォルダへの
アクセスを制限できる
条件例：IPアドレス, 端末



先述した通り、クラウドストレージでは保管場所を伝えるという方法でファイルを共有します。保管場所を知っている人間であれば誰でもそのファイルにアクセス可能ですが、それではセキュリティ面が不安です。そこで役立つのが、「**アクセス制限機能**」です。クラウドストレージでは、ファイルやフォルダに対して「アクセス制限」を設けることができます。IPアドレスや使用デバイスを許可条件として設定したり、ホワイトリストへ

の登録状況（管理者がアクセスを許可したユーザー名簿）を条件とすることも可能です。ファイルにアクセスできるユーザーや環境を制限することで、安全に相手とファイルを共有できます。

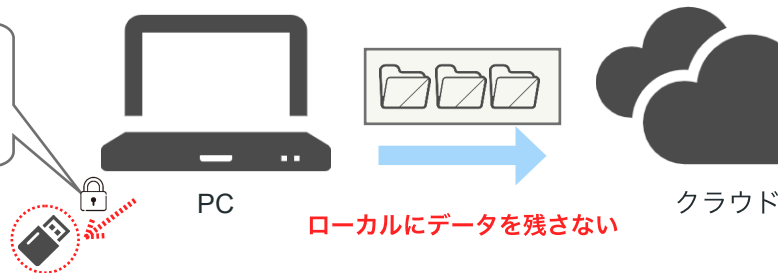
もしも仮に、誤送信をしてしまったとしても、**権限のない人間はファイルにアクセスできないため**、ヒューマンエラーのセキュリティリスクを小さく抑えることが可能です。

POINT4. データをすべてクラウド管理 情報を社外に持ち出さない

すべてのデータをクラウドで管理

情報を社外に持ち出さない環境を作る

ダウンロード制限を設けることで
情報の不正持ち出しを防止



すべてのデータをクラウドに保存
仮に端末を紛失しても、
ローカルストレージから
データを抜かれるリスクがない

情報の社外持ち出しによる情報漏えいリスクにもクラウドストレージは有効です。この情報漏えいリスクの対処においては「**そもそも情報を社外に持ち出さない環境を作ること**」が重要になります。社内の全データをクラウドストレージで管理し、原則端末内にデータを残さない運用を敷くことで、紛失した端末のローカルストレージから情報が漏れるリスクを回避できる他、書類紛失のリスクにおいても、そもそもクラウドストレージは

いつでも・どこからでもデータにアクセスできるため、紙に印刷する行為自体が不要となります。また、不正持ち出しのリスクに対しても、クラウドストレージからのファイルダウンロードを制限することで一定の効果が期待できます。データをクラウドストレージに集約し「情報を社外に持ち出さないファイル管理」を実現することで、情報の社外持ち出しリスクを小さく抑えることが可能です。

クラウドストレージで生産性と安全性を両立

POINT

1

いつでも・どこからでも
データにアクセスできる

POINT

2

同時アクセスが可能、
共同編集でリアルタイム共有

POINT

3

アクセス制限を活用して
安全なファイル共有を実現

POINT

4

データをすべてクラウド管理
情報を社外に持ち出さない

ファイル管理に
クラウドストレージを活用することで

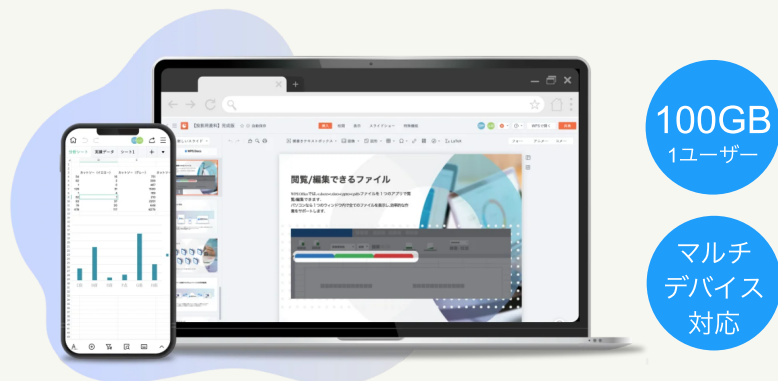
- ・業務生産性の向上
- ・セキュリティリスクの解消

といった効果が期待できる

生産性と安全性の両立を図れる

おすすめクラウドストレージサービス

WPS Cloud Pro



WPS Cloud Proは、**クラウドストレージと互換性オフィスソフトが一体**となった法人向けクラウド型ソリューションです。1ユーザーあたり100GBのファイルストレージが付与され、マルチデバイス対応なのでタブレットやスマートフォンからでもご利用いただけます。ファイルの作成から保管・管理まで、企業のファイル管理にまつわるさまざまなタスクや業務を、WPS Cloud Proひとつで行うことができます。

特徴 1

月額300円で初期費用なし！
優れたコストパフォーマンス

特徴 2

互換性オフィスソフトも使える

特徴 3

セキュアなファイル管理を実現する
組織管理コンソール機能

特徴1 月額300円で初期費用なし！優れたコストパフォーマンス



10人で使っても
月額3,000円(税抜)

- ITインフラのコスト見直し
- 非正規社員へのオフィスアカウント付与にもおすすめ！

ストレージ容量を効率よく使用可能

1ユーザーあたり月額300円(税抜)、初期費用なしでご利用いただけます。10名でお使いいただく場合、環境全体で1TBの容量が使える(100GB × 10名)、月額のコストは3,000円です。また、管理者はストレージ全体の使用容量を確認し、部門ごと/チームごとに保存容量を配分できます。これにより、**ストレージ容量を最大限に効率化させることが可能です。**

ITインフラのコスト見直しにも

ITインフラコストの見直しを目的に導入いただく企業様も多く、中には、**単価がリーズナブルであるがゆえに小回りが利かせやすい**という理由から、非正規社員へのオフィスアカウント配布のために活用いただいている企業様もおります。

特徴2 互換性オフィスソフトも使える



互換性オフィスソフトも使用可能

クラウドストレージの他にPCやスマホで操作できる「互換性オフィスソフト」をご利用いただけます。文書作成ソフト、表計算ソフト、スライド作成ソフト、PDF編集ソフトといった4種類のオフィスアプリが使用可能です。ワードやエクセルで作られたオフィスファイルの閲覧や編集はもちろん、PDFデータの新規作成や編集も行えます。

ドキュメントファイルの作成や編集、保管を集約

クラウドストレージと互換性オフィスソフトの両方が使えるため、企業が扱うあらゆるドキュメントファイルの作成や編集、保管をWPS Cloud Proに集約することができます。

特徴3 セキュアなファイル管理を実現する組織管理コンソール機能



- ・操作履歴のログ抽出
- ・アクセス制限設定
- など様々な操作・設定が可能

管理者があらゆる設定や記録の確認を実行可能

法人専用機能として「組織管理コンソール」を搭載。WPS Cloud Pro を包括的に管理するための機能であり、権限を持った管理者があらゆる設定や記録の確認を実行可能です。例えば、IPアドレスや使用端末を許可条件とした「アクセス制限」の設定や、クラウドストレージ内の操作履歴のログレポート抽出などが行えます。

企業ポリシーに即したセキュアなドキュメント管理を実現

管理者がシステム全体のセキュリティ設定をコントロールできるため、ユーザーはセキュリティについて特別の注意を払うことなく、安心してドキュメントやストレージの操作が行えます。従業員は本来の業務に集中することができるため、業務生産性の向上も期待できます。

WPS Cloud Proで、 ファイル管理をアップデート

企業はその活動において多数のドキュメントを扱います。営業資料やプレゼン資料、財務諸表や請求書など、ドキュメントなしに企業活動は成り立たないといっても過言ではありません。ファイル管理とは、そのドキュメントを企業として適切に管理することを意味します。ドキュメントが企業活動において欠かせないものである以上、それと深く関わるファイル管理も同様に重要な業務・取り組みといえるでしょう。したがって、そのファイル管理を見直すことは、企業活動の最適化において大きな効果が期待できます。特に、本資料で挙げたような「業務生産性」や「セキュリティ」において、高い成果が期待できるはずです。

WPS Cloud Proは、企業のファイル管理を包括的にマネジメントできるクラウド型ソリューションです。クラウドストレージと互換性オフィスソフトの2つを使うことができ、企業が扱うあらゆるドキュメントを組織として一元的に管理することができます。マルチデバイス対応でスマートフォンからも使える他、法人専用機能「組織管理コンソール」によって企業ポリシーに即したセキュリティ対策の実行も可能です。現状のファイル管理に課題を感じられている企業様は、ぜひこの機会にWPS Cloud Proを活用して、ファイル管理の方法をアップデートされてみてはいかがでしょうか。



お問い合わせ

WPS Cloud Proにご興味をお持ちいただけただ方は、下記の電話番号もしくはお問い合わせフォームから、お気軽にお問い合わせください。費用のお見積りや導入のご相談など、様々なお問い合わせを承っております。専任の担当者が貴社に最適な活用方法を提案させていただきます。また、詳細な機能概要や料金プランについてまとめた製品資料も、この機会にぜひダウンロードください（無料）。



ワウテック株式会社
03-5797-7393



WPS Cloud Pro公式サイト
<https://biz.wpscloud.jp/>

お問い合わせフォーム <https://biz.wpscloud.jp/contact>

無料トライアルお申し込み <https://biz.wpscloud.jp/trial>

製品資料DLフォーム <https://biz.wpscloud.jp/document>

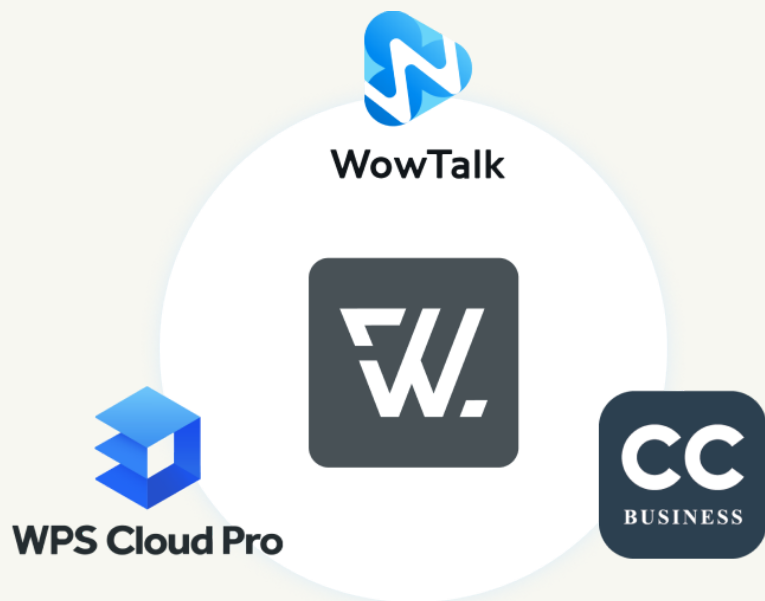
*無料トライアルプランは予告なく提供を終了する場合がございます。最新情報はサービスサイトをご確認いただくか、お問い合わせフォームよりお問い合わせください。

WPS Cloud Proの製品提供元はキングソフト株式会社となります。弊社では同製品の販売業務を請け負っております。

ファイルの作成も、共有も、チームで同時編集も、これひとつで。「クラウド型オフィスソフト WPS Cloud Pro」

必要なクラウドを、必要な分だけ選べる、クラウドソリューション

Wonder Cloud Works



ワウテックは新たなサービスとして、「Wonder Cloud Works(ワンダークラウドワークス)」の提供をスタートしました。WowTalkと、クラウド電話帳「CAMCARD BUSINESS」、クラウド型オフィス「WPS Cloud Pro」を統合した製品です。Wonder Cloud Worksを活用すれば、クラウド型オフィスにプラスして、名刺情報管理やチャット機能などをシームレスに利用でき、業務のさらなる効率化を図ることができます。

＼製品資料のダウンロードや、お問い合わせはこちらから／

<https://www.wondercloudworks.jp/>

Wonder Cloud Works 公式サイト

ファイルの作成も、共有も、チームで同時編集も、これひとつで。



WPS Cloud Pro